

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500431		
法人名	社会福祉法人 宮田福祉会		
事業所名	照陽園 グループホーム		
所在地	福岡県宮若市磯光2159-1		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果確定日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々にとって、心地よい環境づくりと日常生活の中で、食事(おいしく食べているか)・睡眠(よく眠れているか)・排泄(きちんとできているか)を基本に職員は健康管理をしている。健康であることにより園での生活が楽しく暮らせることを念頭に、その人らしい生活援助ができることを目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恒例の山笠や神輿等の来訪、地域の保育園児との七夕祭りが継続し、玄関前のアプローチのベンチで家族と来訪した愛犬と寛いだり、入居者同士で絶妙なやりとりをしながらお膳拭きをする日常がある。「そうめんを食べたい」が叶い、体力が回復し頭髪が生えてきた入居者や終末期の対応を家族に確認している入居者もあり、入居者や家族の意向に沿った介護計画の実践に取り組んでいる。福祉分野の経験豊かな施設長は、個別面談で職員の健康や勤務状況に配慮しながら、全職員で作り直した理念の具現化に取り組んでいる。昨年敷地内にユニット型介護老人福祉施設が開所し、地域の避難場所の指定も受け、法人として地域における高齢者福祉のさらなる拠点づくりが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **A/照曜園グループホーム**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を職員一同で作直し、見やすいところに大きく掲示し、毎朝勤務者一同で唱和することで入居者と共に生きていこうと実践している。職員は笑顔を決やさず寄り添うことで安心して過ごしてもらうよう支援し	昨年全職員で作成した理念を各ユニットの玄関、共有空間、事務所に掲示している。職員は顔色や態度を観察しながら、入居者のペースで暮らせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、草刈に参加。法人で行う夏祭り、餅つきに参加してもらう等お互い行事を通じて、地元との交流を深めている。	恒例行事の山笠や神輿等がホーム玄関まで来訪したり、地域の保育園児と七夕祭りを楽しんだりしている。今月は法人主催の運動会を予定している。開設から9年が過ぎ、地域の理解や自治会との協力が深まりつつあ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を一日招待して、介護保険について、管理栄養士による栄養講座、看護師による健康チェック等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの開催で、ホームの活動状況、外部評価の結果・改善項目、処遇困難事例の検討など話し合っている。	適切なメンバーで2ヶ月毎に開催され、会議録は閲覧できるように、共用空間入口に掲示されている。会議では入居者の状況や意見・苦情、サービス提供困難事例等を報告している。市担当者から肺炎ワクチンの補助金の説明があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである宮若市役所職員を通じて、協力関係を築くよう取り組んでいる。	施設長が第5次介護保険事業計画策定に関わり、市担当者と意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止として危険物の除去、ベットからの転倒防止としてベットの高さ調整・トイレに行きやすい位置に設置するなど身体拘束をしないよう工夫をしている。	毎年地域同業者協議会が開催する身体拘束に関する研修会に参加し、職員会議で内容を伝達している。市の徘徊ネットワークが整備され、先日は在宅高齢者の情報が伝達された。外出傾向のある入居者に関する情報を、法人全体で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今期の第1回目の会議において、倫理規定・虐待防止マニュアルについて再度確認し、言葉遣い等目に見えない行為についても再確認に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会を実施し、入居時本人や家族に成年後見制度の説明を行っている。	法人全体で成年後見制度の学習会を実施しているが、活用はない。法人で日常費用支払い代行契約書を整備し、要望に応じた支援体制がある。	成年後見制度と日常生活自立支援事業の内容やその違いを理解するために、パンフレットの整備や研修会の開催をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明書をもとに十分な説明を行い、ご理解・納得をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族からの意見が常に聞けるように玄関に「ご意見箱」を設置、又行事時に家族と懇談しながら意見を伺い、運営に反映させている。	写真を添付した現状報告を年3回全家族に送付し、喜ばれている。利用料支払いに訪れるご家族に状況を説明したり意見等を伺っている。夜間の職員体制について質問が寄せられ、説明し納得していただいた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、年2回 職員と面談を行い意見等を聞き、運営に反映させている。	毎年4月年間事業計画を法人の全体会議で報告している。ホームの定例職員会議では、職員の提案で、共用空間のベットや浴槽のリフトが設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務のシフトを組む際には、希望日を聞き休める工夫をしている。又、資格取得のための研修等をするなど配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	求人募集については、特に採用基準を設けてはいない。新規採用の職員に対しては、職場の環境整備、介護知識を得るための指導等を行い、生き生きと働けるよう配慮している。又、毎月勉強会を開き介護力アップに努めている。	職員採用時の面接で、介護現場の現状を説明している。法人全体で歓送迎会や忘年会を開催したり、年次有休休暇の取得やシフトの希望を支援している。施設長は年2回、職員との個別面談の機会を設け、健康状態や勤務状況に留意しながら、いきいきと働くことができるように配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年度初めに法人全体で全職員対象に倫理規定のもと人権教育を行っている。	法人理念の高齢者の尊厳ある生活の支援を実践するために、法人全体で研修会を実施している。特に言葉遣い等の接遇について、運営者は日頃から話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内年間研修計画のもと、研修を行っている。外部研修後は、申し送りなど受講内容を伝達している。特養併設であるので、介護技術等の研修は、特養の職員（ベテラン）が指導する。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市グループホーム協議会で毎月1回の勉強会で交流を図り、情報交換やサービスの質の向上に努めている。又職員間の交流会にも参加し親睦を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居1ヶ月は、環境の変化で戸惑い・不安が生じるため、常に職員が寄り添い、信頼関係を築けるよう努力している。そのために、入居前のケア会議・入居2週間後の会議のもと職員の介護ケア統一を図っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に限らず、来園時等に家族とのコミュニケーションをとっている。又、入居初期段階で状況の変化等少しでも見られた場合は、電話等でお尋ねするなど関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のケア会議で検討し、どのようなサービスが必要か見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々の知恵をお借りしながら、梅酒作り・畑作り等共に暮らしている関係を築く努力をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共にできる行事（餅つき等）を通じて、共に支えあっていく関係を築くよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前自宅で飼っていた犬に会いに行くな ど、関係がなくならないよう支援に努めてい る。	訪問調査当日、愛犬を連れて家族の訪問が あった。「一緒に寝ていた」と入居者が話すな ど、家族や愛犬との関係が継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	共通の趣味等でグループ活動する等気の あった人がお互い支えあっているよう努 めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には、必ず声かけを行い、必要など きはいつでも相談くださいと支援に努めてい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	常に状態観察を行いながら、今までの生活 と変わりなくすごせるよう努め、また訴えの できない方の希望・意向の把握に努めてい る。	アセスメントシートを整備し、把握した情報を 共有している。担当制のため、入居者の意 向や思いの把握が深まりつつある。	意向や思いの表出が乏しくなりつつ ある入居者もあることから、担当職員 が把握した穏やかな表情や心地よい 表情をする声かけや対応の共有をお 願いたい。新たな気づきを期待しま す。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居前の面接でその人の生活歴等を聞き、 サービス提供の資料にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	その人の能力・心身状況を把握し、ケアプ ランを立案・見直しをしながら状況の把握に努 めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ケア会議には、必要な関係者と話し合い現 状に即したケアプランを作成している。	担当職員が記載した2週間の生活支援記録 のまとめや、介護計画作成担当者のモニタ リング等を担当者会議で話し合い、介護計画 を作成したり、見直したりしている。	総合方針を具体化した短期・長期目 標を達成するためのサービス内容で あることを全職員が共有し、活発な意 見交換を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌をもとに職員間で情報を共有し、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の宿泊施設はないが、遠方からの家族の来園の際は、利用者の部屋に泊まれるよう援助し、ゆっくりと利用者と家族が過ごせるよう、柔軟なサービスを提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのつながりを大切にし、安全に暮らせるよう努力している。しかし、利用者の介護度も重度化し、本人の心身の力を発揮できるようなことはむずかしい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	定期的な訪問診療を支援したり、眼科や整形外科の受診を支援している。市外の医療機関受診は家族に同行をお願いしたいが、諸般の都合で職員の同行が多い。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康観察で本人の健康状態を把握し、異常が見られたら主治医の指導のもと、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院によっては、情報が得られない場合があるため、入院時は家族と常に病状を聞きながら、医療ソーシャルワーカーと連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末ケアについて説明を行うが、実際に重度化されたとき、再度説明を行っている。	重度化や終末期に関する意向確認書を整備し、状況に応じて随時説明している。予断を許さない状態の入居者もあり、再度意向を確認し、記録を整備している。救急車要請が協力的な地域で、適切な対応が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・緊急時対応のため、必ず年1回消防署の指導のもと、心肺蘇生術の勉強会を開いている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜の避難訓練を行い、利用者がスムーズに避難できるよう訓練を実施している。	ホーム周辺は自然災害で土砂崩れが想定される地域である。地域住民の高齢化が進み、行政指定の避難場所への移動が困難なため、指定を受けてハザードマップに掲載されている。消防署の協力を得て、AEDや救急蘇生法の研修を受講している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護について入居契約書や職員契約書に明記している。管理者は、入居者・家族に個人情報の利用目的について説明し同意を得ている。処遇会議で常に言葉遣いや尊厳の気持ちをもつことを指導している。	理念の尊厳ある生活の支援を実践するためにやさしい言葉遣いについて、機会ある毎に話し合っている。入居者の心身の状況に応じた声かけをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通して常に本人の重い・希望を聞きながら支援しているが、特に訴えのできない方の表情・行動を把握することで支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、一人ひとりの状態に合わせたペースで支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、整容等支援し、行事参加の際は化粧・おしゃれができるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にとって、一番の楽しみである食事の盛り付け等の準備・片付けを職員と共に行っている。	入居者の好物、食べたいもの等を食べる機会を設けたり、握力に配慮し食器を軽くしたり、小分けする等、工夫を凝らしている。訪問調査日も、入居者同士が絶妙なやりとりをしながら、お膳拭きをしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重・身長を測定し、その人にあつたカロリー摂取ができるよう、管理栄養士のもと行っている。又水分に関しても一日の摂取量を記録し、脱水に留意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、時には歯科衛生士の指導も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、誘導を行い排泄の自立支援を行っている。	各居室にトイレが設置され、自立や入居者のプライバシーを支援している。トイレと大きく掲示したり、トイレへの移動を容易にするために、ベットをトイレ前に移動している居室もある。排泄チェックで、個々に応じて支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録と共に、便秘傾向の人には水分・食物繊維の摂取に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個人個人の希望に沿った時間ではないが、各ユニットの入浴日を交互にすることで毎日の入浴を可能にしている。	リフトを設置し、浴槽への出入りを容易にした浴槽を片方のユニットに設置し、両ユニットで活用している。男性入居者が一番風呂に入ることが了解された入浴順番表が掲示されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、その方の身体的状況を常に把握し、休息等安心して暮らせるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の受診、主治医の指導のもと行っている。又状態変化が見られる場合は主治医に連絡する等服薬管理を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動の助長、特にカラオケの好きな人の発表の場を併設の特養と合同で行う行事等で設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は入居者の重度化により、限られているが、ショッピング・花見・つくし取り等極力努力している。しかし、地域の方々の協力はなかなか得られない。	重度化が進み、全員での遠出は難しいが、花見やつくし採り、ショッピングに出掛けてオヤツを買うことを楽しみにしている。近隣を散歩したり、ホームの畑でサツマイモを収穫したり、夏はゴーヤを植えて戸外の風にふれ、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知による物忘れがあるため、お金の所持はお断りしているが、外出支援のとき、おやつ・衣類等を購入してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しているので、いつでも電話できるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前庭には花壇・畑を設置し、居間から見える景色を楽しめる。今年の夏は、「緑のカーテン」でゴーヤを植え収穫も楽しむことができた。居間では、ソファーを利用してテレビ観賞もゆっくりできる。床材はクッション材を使用し余分な音が響かないよう配慮している。	入口の花壇や畑を眺められるアプローチに設置された椅子に座って、訪問した家族や愛犬と寛ぐ入居者もいる。対面式キッチン前に食卓や椅子が置かれ、パーティーションを活用して広い共用空間を区切り、寛げる空間づくりをしている。上窓が手動で開閉され、さわやかな空気が感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く、居場所作りの工夫は十分できている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込まれたたんす・仏壇等により入居者本人が安心できるよう配慮している。	入口に〇〇邸と表札があり、独立した住まいと意識付けられている。洗面台とトイレ、ベッド、クローゼットが設置され、窓の障子が暖かい雰囲気を作っている。絵を描いたり、塗り絵の得意な入居者は作品を額に入れて飾るなど、入居者の作品を大切に飾っている居室が多く、理念の暖かな環境づくりの支援が伺える。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の下、環境整備(浴場にはお風呂と認識できるよう暖簾をかける、大きな文字のカレンダー・時計等)に心がけている。		